

「2015 年 年頭所感」

経営

2015 年 1 月 1 日

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 新しい年を迎えるにあたり、昨年の振り返りと本年以降の取り組みについて述べさせていただきます。

◆ **カーエレクトロニクスは ICT との融合加速、先端技術をめぐる開発競争激化**

2014 年の自動車市場はこれまで拡大を牽引してきた新興国や ASEAN の一部でその伸びが鈍化、国内でも消費増税後に低迷したものの世界的には北米を中心に概ね堅調に推移いたしました。

カーエレクトロニクス業界においては ICT との融合が加速。サプライヤーの開発投資・体制整備や M&A(合併/買収)が活発化、電機・IT 大手など異業種からの参入が本格化するなど、次世代の「安心・安全」「快適・利便」「環境」、各領域における先端技術をめぐり開発競争が激化してまいりました。



代表取締役社長 山中 明

◆ **先行企画・開発力向上、Vehicle-ICT 事業具現化、グローバル生産体制確立などで土台構築**

当社グループにおいては新たな成長に向けて土台を着実に固めることができました。

車載テレマティクス分野を中心に次世代ビジネスモデル構築の一翼を担う『東京事業所(TBO)』を開設、自動車への Android™搭載を推進している団体「オープン・オートモーティブ・アライアンス(OAA)」に加盟するなど、成長戦略の礎となる、富士通グループとの連携やソフトウェアの開発体制における強化を図るとともに、アルパイン株式会社との間で車載プラットフォームの共同開発にも着手。先行企画・開発力の向上や開発投資の効率化に資する活動を重点的に展開してまいりました。

また、これまでの研究開発の成果として、市販業界で最大クラスとなる 1/2.7 インチ CMOS センサーを搭載したドライブレコーダー、国内市販で初めてとなる細街路を含む自動地図更新カーナビゲーションシステムを発売するなど、Vehicle-ICT 事業を具現化いたしました。

さらに、国内における生産基盤を強化するため富士通テンマニュファクチャリングを設立するとともに、海外でも富士通テンインドネシアで量産を開始するなど、グローバル生産体制の確立にも努めてまいりました。

◆ **「Future Link™ (フューチャーリンク)」で『つながる車載情報システムサプライヤー』に変革**

2015 年は Vehicle-ICT 事業の強化を通じて『単体製品』から『つながる車載情報システム』のサプライヤーへの変革を本格的に進めてまいります。

そのためにも昨年(2014 年)6 月の社長就任時に掲げた基本方針にスピードを上げて取り組んでまいります。

- ① QCD+E(Engineering)全般にわたる競争力を強化
- ② 新技術・事業の創造と育成
- ③ 人づくり/風土づくり

昨秋「人」「クルマ」「社会」をつなげ「情報を駆使し、人に働きかけ、行動を促す」コンセプト「Future Link™ (フューチャーリンク)」を発表いたしました。自動地図更新カーナビゲーションシステムはその第一弾となります。今後、個人の運転特性などの「人」に関わるデータ、車載機器・センサーなどから得られる「クルマ」およびそれらの周辺状況に関するデータ、インフラストラクチャーやインターネットなどから得られる「社会」のデータをクラウドセンター上でつなぎ合わせ、お客様一人ひとりに新たな価値を提供できるよう、さらなる進化を目指してまいります。

2015 年はその歩みを大きく前進させる重要な年となります。

成長に向けた次なる変革へと力強く一歩を踏み出してまいります。

(※)Android は、Google Inc.の登録商標です。

配布先	日時	方法
神戸経済記者クラブ / 大阪機械記者クラブ / 中津川記者会 / 小山市記者クラブ / 業界紙 他	2015 年 1 月 1 日(木)00:00	配信(E-Mail、Fax)

【報道関係お問い合わせ先】富士通テン(株)コーポレートコミュニケーション室 広報担当 播磨、樽井 TEL(078)682-2170[直通]